

2018年7月購入図書

No.	図書名	内容	著者名	出版社
1	女性参政70周年記念 女性と政治資料集	10年ごとの定点観測で、女性の政治・公職への参画状況をはじめ、世界の女性と参政権、女性関係年表、資料などを掲載。参画をさらに強めるための基礎データが多数掲載されている。	(公財)市川房枝記念会 女性と政治センター	(公財)市川房枝記念会 女性と政治センター
2	いろいろななかぞくのほん	現代の家族にはいろいろな形がある。家も、人数も、仕事も、服も、食事も、趣味も、気分もそれぞれ。本書はさまざまな家庭や生活をユーモアあふれるイラストで紹介。一人ひとりを尊重し、暖かく広い心をもった子どもへと育てる一助となる1冊。	メアリ・ホフマン／文 ロス・アスキス／絵 杉本詠美／訳	少年写真新聞社
3	すごいトシヨリBOOK トシをとると楽しみがふえる	老いにあらがわず、老いを受け入れて、自分らしく楽しくトシをとろう。そう決めた著者は、70歳になったとき、「すごいトシヨリBOOK」と名付けたノートをつくり、老いていく自分の姿を記録しはじめた。もの忘れがふえたり、身体が言うことをきかなかったりする自分と向き合いながら、老人の行動をチェックするための「老化早見表」なるものを考案、「OTKJ」(お金をつかわないで暮らす術)といった独創的なシステムや、「せんべいの管理」で生活にメリハリをつける方法など、楽しく老いる知恵と工夫を日々研鑽している。	池内紀	毎日新聞出版
4	カミングアウト	自分が性的少数者であると打ち明けること。それは必然的にわたし/あなたの関係の再構築を要請する。拒絶されるかもしれない。でも、本当の自分を受け入れてほしい—躊躇いながらカミングアウトを決断した人たちと、その家族。両者の葛藤の先に何が待っているのか。8つのストーリーから探る、カミングアウトの現在。カミングアウトが自然に受け入れられる社会は、すべての人の存在そのものを肯定する社会へとつながっていると説く。	砂川秀樹	朝日新書
5	ルポ 保育格差	入る保育所によって保育の質が大きく異なるという実態が詳細に描かれている。泣く子どもを隔離したり、目の前で「嫌い」と言い放ったりと、保育士により日常的に繰り返される虐待についても記述。待機児童解消のために保育所が急ピッチで作られ保育士不足である一方、規制緩和により人件費が削られ、ブラック職場になっている現状を踏まえ、それでも「子どもの最善の利益」を守る保育所を作るために今何が必要なのかを考察している。	小林美希	岩波新書
6	発達障害と少年犯罪	発達障害と犯罪に直接の関係はないが、発達障害をもつ子どもの特性が、彼らを犯罪の世界に引き込んでしまう傾向があることは否めない。そんな負の連鎖を断ち切るためには何が必要なのか、加害当事者や支援者など、関係者を徹底取材。発達障害をもつ子どもたちがしばしば放置されたままになっていること、同じく発達障害をもつ親などからの「虐待の連鎖」ともいべき事態に身を置かれていること、その意味でたまたま加害者になってしまった子どもたちも実際には「被害者」の側面が強いこと、などを踏まえた解決の方策を探っている。	田淵俊彦 NNNDキュメント取材班	新潮新書

7	「発達障害」と言いたがる人たち	発達障害である可能性は低いのに、「私は発達障害かも」と考え、生きづらさの原因を発達障害に求める人が増えているという。発達障害に関する分類や考え方は、まだまだ大きく変動しており、精神科医でさえ、その変動についていくのは難しい現状の中、早く診断を受けて、適切な支援を受けさえすれば、この「生きづらさ」は軽減されるのか？と著者は疑問を呈する。医療の問題というより社会的な現象となっている「発達障害バブル」について取り上げ、原因について考察している。	香山リカ	SB新書
8	料理は女の義務ですか	「昔から苦手」「とにかく時間がない」…それでも家族のために気分を奮い立たせて、毎日台所に立つ女性たち。一体、どうすれば料理への苦手意識を克服できるのか？その歴史をひもとき、「スープの底力」「楽しい保存食」「便利な常備菜」といった先人の豊かな知恵に今こそ学ぼう。女性の社会進出と現代の台所事情、「一汁一菜」より大切なこと、料理がつなぐ人間関係など、女性の生き方を通して考える料理論。	阿古真理	新潮新書
9	女たちの避難所	九死に一生を得た福子は津波から助けた少年と、乳飲み子を抱えた遠乃は舅や義兄と、息子とはぐれたシングルマザーの渚は一人、避難所へ向かった。だがそこは、“絆”を盾に段ボールの仕切りも使わせない監視社会。男尊女卑が蔓延り、美しい遠乃は好奇の目の中、授乳もままならなかった。やがて虐げられた女たちは静かに怒り、立ち上がる。フィクションだが、東日本大震災で実際に起きていた状況を克明に描いており、女性目線の避難所づくりの大切さがよく分かる一冊。	垣谷美雨	新潮文庫
10	オレって老人？	「私が老化に気づいたのは、先週だったと思う」と切り出し、老いをめぐる悲喜こもごもを軽妙に描いたエッセー集。自分の年齢をあるがままに受け入れつつ、「笑い」を交えて「老い」を考えている様子は、前向きに生きる上で大きなヒントとなるだろう。	南伸坊	筑摩書房
11	「コミュ障」の社会学	空気を読むのが苦手でも、人とつながって生きていける。不登校やひきこもりに寄り添いながら、学校や職場を支配する「コミュニケーション至上主義」の背景を明らかにする、生きづらさを抱えたみんなのための社会学。コミュニケーションとは相互作用である以上、個人にのみ「障害」の原因があると捉えるのは誤りだと指摘。多様な個性に開かれた対話シーンを作るために何をすべきかについて考え、多様性を認め合える社会作りの一助となる一冊。	貴戸理恵	青土社
12	百年の女 『婦人公論』が見た大正、昭和、平成	大正の「非モテ」、女タイピストの犯罪者集団、ウーマン・リブとセックス、専業主婦第二職業論……トンデモ事件から時代を揺るがせた論争まで。人気エッセイストが、『婦人公論』(1916年創刊)の主要記事やトピックを取り上げながら、日本女性と社会の変遷を丹念に追った、異色の近現代史。	酒井順子	中央公論新社

13	あなたも知らない女のカラダ 希望を叶える性の話	30代～40代の患者と接していて、女性たちが女性のカラダの仕組みを理解していないことに衝撃を受けた産婦人科医である著者による、あらゆる世代の女性にエールを送る一冊。自分自身のカラダについて正しく知っていれば、そのことで人生の岐路に立った時に、自由でいきいきとした自分らしい生き方を選択できると説く。	船曳美也子	講談社
14	みんなの防災えほん	災害が起こったとき、自分がいつ、どこにいても、安全な場所へ逃げられるように学ぶための一冊。子どもたちが、災害から身を守るために自分にもできることがあるということを考えるきっかけとなる。	山村武彦／監修 YUU／絵	PHP研究所
15	「仕事」も「育児」も大切なパパに贈る本	NPO法人を設立し、虐待予防支援の事業を始め、保育施設を運営する著者。特に父親に向けて、押さえておきたい子育ての理念やテクニックを紹介する一冊。「子どもには自分の権利を守る力がある」という考え方や、親の5つの役割プログラムの紹介、父親の育児を促す労働法規の確認、親のセルフコントロールのコツなど、具体的な方法を指し示してくれる。	小林聖司	文芸社
16	生理ちゃん	女性の生理をキャラクターとして擬人化し、生理痛や倦怠感など女性特有の症状をわかりやすく伝えるコミックス。キャラクターがツキイチで女性のもとへやってきて、直接影響を及ぼすような描写となっているので、生理を経験したことのない男性にも生理中の女性の気持ちがよくわかるようになっている。また、男性の生理的現象についても描かれており、性教育本としても有効な一冊。	小山健	KADOKAWA